多面的機能支払交付金に関する ロジックモデル

平 成 2 9 年 8 月

農林水産省

目 次

1.	ロジックモデル(案)の概要			•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1
2.	ロジックモデルの作成方法	•			•		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	2
3.	取組事例によるロジックモデ	ルの	り検	証	方法	去	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	3
4.	各種データによるロジックモ	デノ	レの)深	化	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	6
5.	ロジックモデルの簡素化・	•		•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	7
6.	詳細版ロジックモデル(案)	,		-	•		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	8
7.	簡略版ロジックモデル(案)			-			•	•		•	•		•			•	•		•			9

(参考) 資料3-2:ロジックモデルの検証事例集

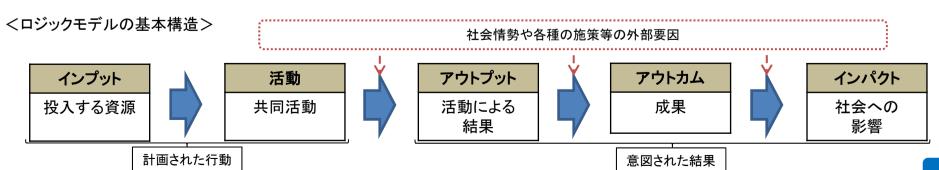
1. ロジックモデル(案)の概要

(1)目的

○ 本交付金の中間評価に当たって、活動(手段)による効果(成果)を評価するため、活動がその目的を 達成し、成果を上げるまでのプロセスを論理的に説明するためのロジックモデル(案)を整理。

(2) 考え方

- インプット→活動→アウトプット→アウトカム→インパクトの5段階のプロセスとした。
- 〇 「インプット」は、活動に必要な、人(農業者、非農業者)、地域資源(農用地、水路、農道、ため 池)、本交付金とし、「活動」は3支払で支援する各活動とした。
- 〇 「アウトプット」は活動による結果、「アウトカム」は活動による成果、「インパクト」は社会への影響として、各活動による効果を整理。
- 〇 「インパクト」は、施策の理念の実現をゴールとし、 『食料・農業・農村基本法』や『農業の有する 多面的機能の発揮の促進に関する法律』の基本理念を基に「農業の持続的な発展」、「多面的機能の発 揮」、「農村の振興」の3つに区分した。
- 中間評価における6つの評価の視点は、各種のアウトカム(成果)に対するより包括的な概念として、 ロジックモデル中に整理した。
- 本交付金のアウトプット・アウトカム・インパクトについては、社会情勢や各種の施策等の外部要因の 影響を考慮する必要があるが、今回は本交付金に係る手段と成果の関係性を明示する目的であるため、 本交付金の影響に絞って整理した。



2. ロジックモデルの作成方法

- (1) 取組事例によるロジックモデルの検証
- 本交付金の主な活動によるインパクトまでの考えられる項目を整理した上で、各種事例における取組の 内容及び効果を用いて、ロジックモデルのインプットからインパクトに至るまでのプロセスを検証。そ の際、必要に応じて、アウトプット等の項目を適宜、追加する。
- (2) 各種データによるロジックモデルの深化
- 〇統計データ、都道府県中間評価、アンケート調査等を用いて、ロジックモデルにおけるアウトプット、 アウトカムの効果発現の確実性を評価する。

く使用データン

- ① 統計データ (農林業センサスデータ等) (2005年、2010年、2015年)
- ② 都道府県中間評価(平成28年度)
- ③ 活動組織へのアンケート調査(平成27年度)
- ④ 活動組織による自己評価及び市町村評価の試行調査(平成28年度)
- ⑤ 市町村への実態調査(平成28年度)

<評価方法>

- ・①については、傾向スコアマッチング分析により、旧市区町村単位で本交付金の取組の有無によって比較し、有意な差が現れた項目について、効果の発現状況を評価する。
- ・②については、都道府県中間評価書の各効果項目における評価結果を集計し、効果の発現状況を評価する。
- ・③及び④については、調査対象の活動項目等と、効果に係る回答をクロス集計し、アウトプット、アウトカムの関係項目の発現状況を評価する。
- ・⑤については、市町村の取組理由等と、効果に係る回答をクロス集計し、アウトプット、アウトカムの関係項目の発現状況を評価する。

3. 取組事例によるロジックモデルの検証方法

各種の活動から生じているアウトプット・アウトカムを取組事例から整理。

(イメージ図)

トキの餌場となる水田生物多様性の取組

中間農業地域

しょうみょうじ

正明寺地域資源保全会 (新潟県佐渡市)

○ 本地域は、小佐渡東部から国仲平野にかけて広がる水田地帯で、トキの野生復帰ステーション が設置され、トキの放鳥を実施。トキを目当てにした島外からの観光客が増加。

生物調査や草刈・泥上げ等の 維持管理によるアウトプット・ アウトカム

境保全活動やそば祭り等の地域住民との交流活動、トビシマカン 布。また、担い手の農地周りの施設を集落ぐるみで保全管理。

維持され、トキの生息環境が向上。トキをシンボルにした認証米の を通じたコミュニティ機能の向上や共同活動による担い手である

【地区概要】

- ·取組面積64ha (田64ha)
- · 資源量 開水路10km、農道11km
- ·主な構成員 自治会、婦人会、 青年会、集落長OB会
- ·交付金 約3百万円(H28)

農地維持支払 資源向上支払(共同)

活動開始前の状況や課題

〇 本地域は、小佐渡東部から国仲平野 にかけて広がる水田地帯であり、トキの

植栽活動や地域住民との交 流活動によるアウトプット・ア ウトカム

物の確 り組む。 :23年度 島外か

らの観光容が増加。

〇 平成19年度からは、農地・水・環境保 全向上対策に取り組み、農村環境を向 上。

草刈・泥上げ等の維持管理に よるアウトプット・アウトカム



取組内容

〇 生物調査、除草剤を使わずに草刈り する等の施設の維持管理を実施。



スロープ水路を活用す





地域内の交流を深めるそば祭りの様子

- そば祭りや講演会等の地域住民との 交流活動や市の花であるトビシマカンソ ウの植栽による景観形成を実施。
- 〇担い手の農地周りの施設を集落ぐる みで保全管理。

取組の効果

○トキの餌となる多様な水田生物の生息環 境が維持。トキが餌場として利用する頻度 が増加。



- 〇 佐渡市の「朱鷺と暮らす郷づくり認証制 度」の認証米の栽培を支援。
- ご動を通じて生物の知識を習得した農業 者が、修学旅行の受入れや観光客向けに ガイドを行い、農村環境をPR。
- 交流活動等により、地域資源の保全管理 に関する理解が非農家を含めて醸成し、コ ミュニティ機能が向上。
- 〇 共同活動により、施設の機能が維持され、 地区内の農地の約8割を引き受けてい る農業生産法人の負担を軽減。

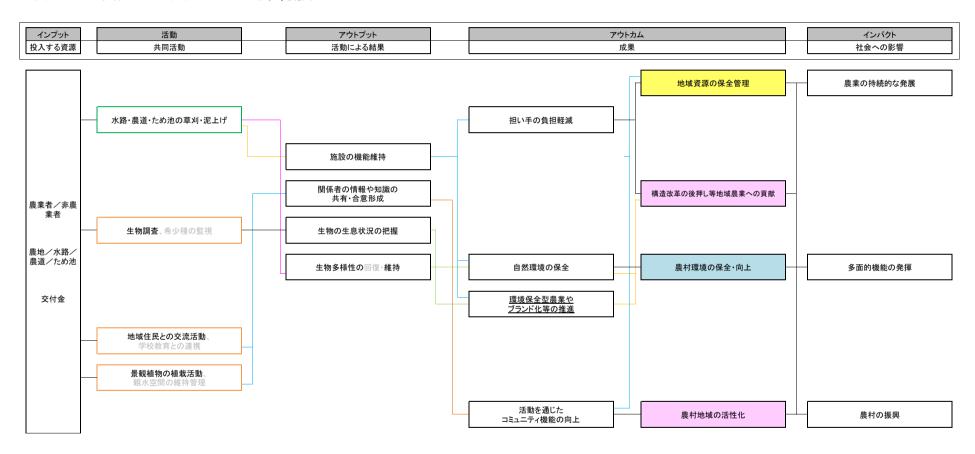
3. 取組事例によるロジックモデルの検証方法

○ 整理した内容を基に、各種の活動に関連するアウトプット・アウトカムを線で結ぶ。 (イメージ図) ロジックモデル (分割版) 前ページで整理したアウトプット・アウトカムを結ぶ接続線 インプット 活動 アウトプット アウトカム インパクト 投入する資源 共同活動 活動による結果 成果 社会への影響 農業者/非農 水路・農道・ため池の草刈・泥上げ 施設の機能維持 自然環境の保全 農村環境の保全・向上 多面的機能の発揮 環境保全型農業や 農地/水路/ 生物多様性の回復・維持 構造改革の後押し等地域農業への貢献 ブランド化等の推進 農道/ため池 農業の持続的な発展 生物調査、希少種の監視 生物の生息状況の把握 交付金 B 地域住民との交流活動。 関係者の情報や知識の 活動を通じた 農業者/非農 農村地域の活性化 コミュニティ機能の向上 農村の振興 共有·合意形成 業者 農地/水路/ 農道/ため池 景観植物の植栽活動 農業の持続的な発展 地域資源の保全管理 交付金 農業者/非農 施設の機能維持 担い手の負担軽減 水路・農道・ため池の草刈・泥上げ 地域資源の保全管理 業者 農地/水路/ 農業の持続的な発展 農道/ため池 構造改革の後押し等地域農業への貢献 交付金

3. 取組事例によるロジックモデルの検証方法

○ 整理した内容を基に、各種の活動に関連するアウトプット・アウトカムを線で結ぶ。

(イメージ図) ロジックモデル (集約版)



4 . 各種データによるロジックモデルの深化

(橙色細枠)

(青色細枠)

資源向上支払(共同活動)

資源向上支払(長寿命化)

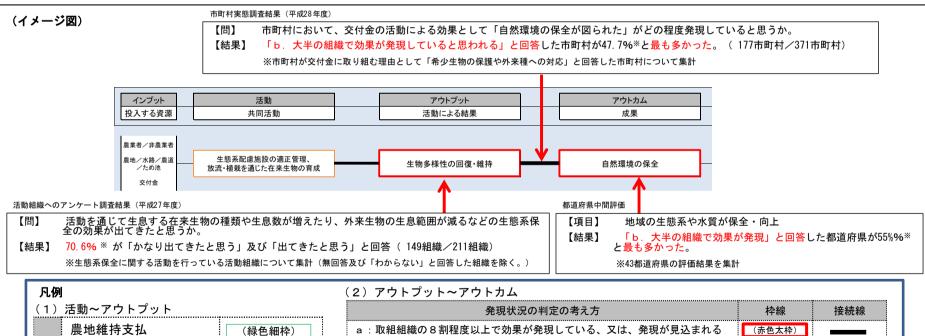
直接的なアウトプット

間接的なアウトプット

- アウトプットやアウトカムの効果発現の確実性を以下のとおり評価し、線種を区分。
 - ① アウトプット及びアウトカムは、上記『2. ロジックモデルの作成方法』により効果の発現状況を評価し、枠線を設定。なお、統計データによる評価を最優先し、次いで都道府県中間評価の結果を優先するが、これらの指標がない場合は、アンケート調査等を総合的に評価して枠線を設定。

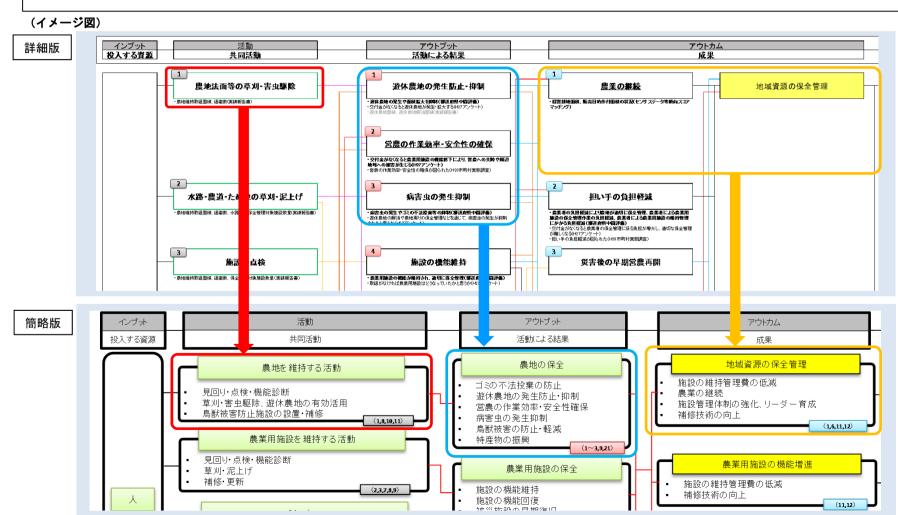
(※統計データによる評価は、効果が確実に現れていると判断し、a判定とした)

- ② 活動からアウトプットへのつながりは、直接的なアウトプットと間接的なアウトプットで区分し、接続線を設定。
- ③ アウトプットからアウトカムへのつながりは、アンケート調査等を総合的に評価し、接続線を設定。



5. ロジックモデルの簡素化

- 〇 国民にも分かりやすくするため、深化させたロジックモデルを基に、活動、アウトプット及びアウトカム の各項目をグループ化し、ロジックモデルを簡素化した。
- ①活動は活動の目的別に、②アウトプットは結果の内容別に、③アウトカムは中間評価における6つの評価の視点毎にグループ化した。
- 接続線は、主要なつながりに絞って表した。



補修・更新を直営施工で行うことで、特別天然記念物オオにシクイの飛来状況に配慮した工事が実現。 棚田法面の草刈を省力化する ために植栽したシバザクラが観 光客を呼び、これを契機に農産 物の加工グループが設立。 除草や植栽活動によって水路 周辺が綺麗になり、散歩コース になるほど地域住民の注目を 集めている。 生き物調査で知識を習得した 農業者が観光客向けのガイドを 行い、トキと生きものを守る農法 を説明し、農村環境をPR。 農村環境学習に取り組む劇 団が、地域資源の保全活動に 参加したことで、農村環境保全 に関するの知見を更に深め、 子どもに伝える演目の充実や、 新しいキャラクターの誕生につ ながっている。 空心菜の水耕栽培で水質改 善を図るとともに、空心菜の収 種祭を開くことで地域の交流が 活性化。 向道環境保全会(山口県周南 市) 地域の話し合いから、構成員 の農事組合法人で障害者の就 労の場を作り、新たな担い手を 確保する農福連携の取組が進 んだ。 NPO法人メダカのコタロー劇団 (兵庫県) 阿武町阿武地域広域協定運営 委員会(山口県阿武町) 玉城地域農地·水·環境保全管理協定運営委員会(沖縄県南城市) 正明寺地域資源保全会(新潟 県佐渡市) 近藤沼環境保全協議会(群馬 県館林市) 門前地域資源保全活動組織 (茨城県稲敷市) 波及的効果が 発現している事例 インパクト社会への影響 農業の持続的な発展 多面的機能の発揮 農村の振興 構造改革の後押し等地域農業への貢献 自然災害等の防災・減災
 (1)活動~アウトプット

 機地維持支払

 標準

 資源向上支払(長寿命に)

 資源向上支払(長寿命に)

 機

 直接的なアウトブット

 機

 間接的なアウトブット

 機
自然災害等の防災・減災 地域資源の保全管理 農村地域の活性化 担い手の負担軽減 managed managed in processing the managed managed in processing the pr 1日い手への農地利用集積 のなどの産業を開催的ではアメディージを成みつする。 第一次事業を学っの他を指こ向けたが低が達成や監視の事業を再中職 19 交流人口の増加・観光の促進・実ま人口の増加・観光の促進・支票人口の増加・番条の資金が開発開展 施設の維持管理費の低減 の編練書業の最高がEGAたGA28時間将展報業 題いや安らぎの場の提供 いや安をぎの場の過去が聞られた(Hzshinh)書書書書 災害後の早期営農再開 生活環境の保全・向上 担い手の育成・確保 議条の組い子の育成・確保 議案の組い子の資産が建築(総選申票申開序制) な組がなければ、農業の組い手が再成さればべなる(の 洪水防止·軽減 農業の総続しません。 生物多様性の回復・維持 *BREUK ESFYSERS BOUNDES BENEFIC TO A SEPONS BENEFIC 1章の不法投棄の防止 **ゴミの不法投棄の際(に関係的)** Set after conclude and an and a set of a s 2 宣農の作業効率・安全性の確保 *研究がなると展析験の機能下に対、第一の政策 ・対象を必要はもの紹介が ・選の作品・変素の解析があれた。 10 水田の貯水容積の増加による 大雨時の雨水貯留(排水調整) 11ため池の雨水貯留容量の増大 地域内の有機性廃棄物の減量 3 病害虫の発生で14の発生抑制 需要3の発生で14の水管設施の時間を記解中間に 時間はた2度3の形で7ングール 施設の機能維持 - Managoons/West (GELEGO) 鳥獣被害の防止・軽減 1) 水質の維持・改善 - * 2012 C. * * 2017 C * * 2018 C * * 2018 C * 2018 施設の機能回復 特産物の振興 地下水かん養 21 地域資源の保全管理農村環境の保全・向上 |12| |水田の雨水貯留機能の向上のための | |睡時の嵩上げ等 | 睡時の嵩上げ等 14年第50年50ための3898年1133 | 法水前のためかのグート等の操作や | 法水前のためかの | 排水ボンブの検動 生態系配慮施設の適正管理、 放流・植栽を通じた在来生物の育成 4 異常気象後の見回り・点検 #bb#fbbullaft aleet, G全管型が東BEbbe (系統報告書) 無地法面等の草刈・害虫駆除 6. 詳細版ロジックモデル(案)全ての視点を踏まえたロジックモデル(案)〈評価の視点〉 地域資源の保全に関する 話し合い・研修等 高に合い・研修等 (19) 循環かんがい、非かんがい類の通水 水田の排水(濁水)管理、 ガリーンベルトの適正管理・ ・単料理域の金をのための影響を 鳥獣被害防止施設の設置・補修 施設の点検 |面積、組織数、保全管理対象階級数量(実規報) 農業に由来する行事の継承 (24) 有機性物質のたい肥化等 資源循環のための活動 生物調査、希少種の監視 はさ掛け等の伝統農法、 棚田等の石垣法面の草刈 異常気象後の応急措置 ^{組面積、組模数、保全管理対象路投設量(実積} 地域用水の維持管理 <u>転作</u>水田<u>等の水張り、</u> 水源かん養林の保全 地域住民との交流活動 学校教育との連携 景観植物の植栽活動、 親水空間の維持管理 遊休農地の有効活用 施設の補修・更新 施設の機能診断 外来種の駆除 軽微な補修 14 ·最份報報の (15) ြစ = [7] 10 16 18 [2] [1] インプット 投入する資源 農業者/非農 業者 職若/米器/ 職道/ため治 效付金

7. 簡略版ロジックモデル(案)

